



# 南郷

札幌市立南郷小学校 学校だより 第4号  
令和6年 6月28日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<http://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>

## 「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」

～笑顔に満ちる学校～つなげる子 認め合う子をめざして～

校長 関根治彦

6月12日（水）、第1回目のスマイル活動がスタートしました。スマイル活動とは1～6年生が1つのグループを作り、異学年同士での遊びを通して、新しい仲間とふれ合い、進んで友達関係を広げていこうとする態度を育成する活動です。活動が始まってみると、「スマイル委員会の高学年が中心となって一生懸命に進める姿」「膝を折って低学年の目線の高さで語りかける高学年の姿」そして「期待に満ちた目で進行している高学年を見る姿」が見られ、そこには「思いやりと憧れ」が満ちあふれていました

本校の目指す学校は「笑顔に満ちる学校」です。では、子どもたちは「笑顔に満ちる学校」になるためには、どんなことにがんばっていったらよいのか。昨年度末に先生方と話し合いました。本校の子どもたちは能力には高く、友達思いの子どもたちです。しかし、一方ではどこか自分に自信が無く、新しいことに挑戦することに足踏みをする傾向にあります。これは本校の子たちだけの特徴ではなく、国際比較でも表れる日本の子どもの自己肯定感の低さです。そこで「様々な人とかかわり合いながら、他人を思いやり、他の価値観を認め、相手の思いをくみ取る子どもを育成することで、自己肯定感を高めていこう」と考えました。そのために、「つなげる子 認め合う子」を子どもたちの目標として設定しました。そして、始業式の日の学校長からの話で、今年度ががんばることとお話ししました。

今から約150年前に『人間が想像できることは、人間が必ず実現できる』という言葉を残した人がいます。フランスのSF作家でSFの父と呼ばれたジュール・ヴェルヌです。読んでいる方も多いと思いますが、『十五少年漂流記』やディズニー映画にもなった『海底二万里』などを書いた人です。特にこの『海底二万里』という潜水艦を舞台にした物語が書かれた当時は、潜水艦が存在しておらず、作者の想像力だけで作り上げられたものでした。現在では海洋調査等で潜水艦が使われることは当たり前の事実です。

私が幼少の時に特撮ドラマやアニメーションで見ていたものに、腕時計が通信装置になるものや、一般家庭にテレビ電話があるシーンが記憶に残っています。当時は、電話は黒いダイヤル式のもので、テレビはようやくカラーが一般的になった時代です。腕時計型の通信装置やテレビ電話など、遠い未来の話だと思っていましたが、50年もたたないうちに携帯電話やスマートフォンが作られ、一人一人が小型のテレビ電話を持ち歩く時代になったのです。

『人間が想像できるものは、人間が必ず実現できる』は人の可能性に対して、大変勇気を与えてくれる言葉であり、未来への希望を膨らませてくれる言葉です。しかし、裏を返せば『想像できなければ、実現できない』ということにつながります。

実現していくためには、まずその元となる「想像」することが必要です。そして、その想像を実現させるためには、その後の継続した努力も大切です。この継続した努力の苦しみを乗り越えていくためには「想像」がより具体的であることが重要です。より具体的であればあるほど、その想像に「思いや念」が宿るからです。想像しなければ始まらないのです。前述した「スマイル活動」に向かう子どもたちの姿は、まさに実現に向けたスタートラインに立った姿です。「つなげる子 認め合う子」に向けて、動き出した事を実感しました。

このほか「笑顔に満ちる学校～つなげる子 認め合う子～」の実現と育成のために、今年度のどんな取組をしていくかについて、「南郷小学校の教育」として、学校ホームページに準備が整い次第、動画をアップロードいたしますので、ご覧いただければ幸いです。